

「豊かさを誤ってはいけない」
～思い込み、思い違いを捨てよう～

ガラテヤ6：1～10
箴言28：11

私たちに『まさか』という想定外な事柄が日常的に起きているのではないのでしょうか。様々な人間関係の中においても『こんなはずではなかった』というようなことが毎日起っているかと思えます。私たちが教会で聖書のメッセージを聞くのは、その『まさかの時』どのような対処するのが最善なのかについて学んでいるのです。しかし私たちは今まで経験したことや学んできたことによって、いつも同じ方法で解決するようになっていきます。これは私たちが生きていくにあたり、様々な可能性を排除し、狭い生き方をしていることにつながります。この方法は『自分には問題がない』と思わせたり、『これ以上良くならなくても良い』と思わせ、平凡な毎日を願うことに繋がっていきます。しかし私たちは、今ある現状に決して満足をしてはいけません。しかし同時に今ある現状について、神から与えられた今があることを感謝をしていきましょう。「満足」と「感謝」は全く違います。ここには大きな違いがありますので注意が必要です。日々の生活で満足感を得ていると思っているということは、周りあるものを自分を満たすための道具としてみているということです。反対に良い事に用いるための道具としてみているのであれば、周りにあるものを感謝して受け取ることができています。私たちがする行動の1つひとつに対して、自分の本来の動きを忘れてしまうと、人との比較によって優劣を見るようになり、自己満足につながるようになります。私たちは本来の目的を忘れて目を向けなくてもよいところに目をむけてしまいます。そして私たちは平凡な毎日を願うような矛盾を繰り返しているのです。他人より良くなるためには平凡な生活ではいけません。私たちは自分の本来するべきことを忘れずに生きていかなくてはなりません。これを忘れてしまうと、周りにあるものは自分を満たすために使うようになり、新しく与えられたものは自分を守るために使うようになります。これこそ、自己中心の生き方です。私たちはこの自己中心の生き方がいけないことは分かっているのですが、自己中心になることを選択しています。ではどのようにすれば、自己中心から離れる事ができるようになるのでしょうか。それはまず、自分をj知ることです。自分の本来の目的を知ると、自らのために生きることから離れることができます。私たちは周りにいる人のために生きていこうと思ったからと言ってできるわけではありません。しかし自分の本来の目的を知り、それに向かって生きようになると自分のためではなく、自然と周りにいる人のために生きていく事ができるようになります。知らず知らずの内に多くの人に恵みを分かち合いながら生きていくのです。その上で私たちが決まて行つてはならないこと、それは今の自分自身において満足をするということです。今の私たちに満足をしてしまうと、私たちだけはよいかもしれません。しかし私たちが通して、幸せを受けようとする人々がたくさんいるにも関わらず、その方々へ流れることはありません。私たちが自分の存在価値を見い出す時というのは周riの方々から感謝をされた時です。自分のしたことが相手に伝わり、感謝されることで見い出しています。もし自分の思いや行動が相手に伝わらなかつた時には寂しい気持ちになったり、怒ったりします。でも聖書では「あなたは、施しをするとき、右の手のしていることを左の手に知られないようにしなさい。（マタイ6：3）」とされています。神は私たちの良い行いは誰にも知られないようにしなさいとされています。しかし心の中では褒められたい、感謝されたいという思いがあり、それとの葛藤がおこっているのです。私たちは周riの人から認めてもらえれば、元気になるというようではいけません。いつも与えられたものに感謝し、受けたものを周りに流したいと思っている人生は平凡ではありません。私たちは良い決断をし、今日から新しく生まれ変わった人生歩みますといっているのですからその道を歩み続けていかなくてはなりません。（ガラ6：1～10）私たちが今の得ている“もの”で満足しているのであれば、もしそれらを失ったらどうなるのでしょうか。ものであれば、必ず失う時がきます。今回の震災は築きあげてきたものの多くのが失われていきました。そして失ってしまった今、どのように生きているのか。この土台となる、人に与えられている本来の目的があるのかが問われているのです。ですから聖書は「心の貧しいものは幸いです。（マタイ5：3）」とされています。心の貧しいものとは、神を見て、へりくだっている人のことです。私たちが満足し、心の貧しさがなくなった時、周riへの恵みが止まります。だからこそ、私たちは現状で満足をしてはいけません。そして、すでに得たものを維持することはとても難しいことです。目的が維持になった時には継続することはできません。私たちは目的のためには何でもできるのですから、目的を見失うようなことはさけなければいけません。私たちが周りに良いものを流したいのであれば、善い行いをし続けなければならないといけません。（ガラ6：9）また自分のために良い行いをすることは意味がありません。周りにいる人々のために、良い行いをし続けなければいけません。そうすれば私たちは多くを蒔き、多くを刈りとることができます。そのために自分にも与えられるものを感謝して受けとりましょう。そうすれば、良いものとして流すことができます。（箴言28：11）ここで伝えたいことは同じで、決して満足してはいけないということです。自分が豊かであると勘違いをしていないのでしょうか。今あるもので満足していることはないか振りかえてみましょう。そして自らが賢い人であったのか、それとも愚かな人であったのか。知恵あるものは愚かな行動はしません。しかし感情と思い込みと勘違いによって、間違つた行動を繰り返してしまつていた私たちは、自らを愚かだとは認めたくありません。知恵があつたら行わない行動があります。そして分別とは見抜くという意味があります。私たちが本来するべきところに種を蒔くために見抜くことが必要になるのです。道端に種を蒔くような意味のないことをしてはいけません。そのために①豊かだと思つた！これは満足を得ようとして行うことも含みます。満足とは結果として得られるのであって、満足を求めるものではありません。私たちの周りにある、家、車、家族などは自分が満足するために得るものではありません。今日神が伝えようとしていることは今までの生き方の順番が違つたということです。私たちは周りにいる人のために、良いものを流していくためには本来の目的を果たすために踏み出すように言われています。そうすれば、周りがはじめによくなり、自らも返ってくるのです。そのためにはいつも「心の貧しい人」でなければいけません。（マタイ25：14～30）ここに書かれているタラントを預けられた人たちの行動を見ても同じです。5タラント、2タラント預けられた人はそれを用いていきました。しかし1タラントの人は用いることをしませんでした。ですから私たちは自分に与えられているものに感謝をし、周りにいる人々のために流していきましょう。②自分を知る。私たちは本当の自分を知っているのでしょうか。私はどのような人でしょうか。私は何のために生きて、存在しているのでしょうか。私たちはなぜほしがれるのか…いろいろと考えていると結果「分からない！」と考えることを放棄して目の前にある小さな事に目を向けてしまいます。（ローマ7：15～）パウロがここで語ろうとしていることは、自分はむなしい人だということです。私たちは知っています。良い事をしたくても良い事ができず、してはならない事をしてしまうことを。自分がそのようなむなしい存在であると認めるからこそ、主に頼ろうとするのです。しかし私たちが人に頼るのは、単に自分ですることが面倒くさくなっているからです。自分にできない事は人に頼ることはしません。それはなぜでしょうか。それは自分の出来ないことを人がしてしまう事は自分にとって嫌な事なのです。だから自分ができる事しか人には頼みません。いつも他人と比較することしかしません。他人と比較しなければ自分を保つことが出来ないのは自分の事を知らないからです。自分の良いところを知っているならば、自分の悪い所も知ることができます。私たちは自らの良いところも悪いところも認めず、他人と比べて「あの人はマシ」と納得させて終わってしまいます。私たちは互いに徳を高め合うことによって、自分の素晴らしさに気づきます。私たちは完璧な人はいません。良いところもあり、悪いところもあります。ですから、互いに認め合う必要があるのです。その為にはまず、自分が自分の良いところをしっかりと受け取ることです。そこで初めて自分の悪いところも受け取れるようになるのです。その上で互いに認め合ひましょう。そしてそのような私たちは③キリストの身主にまで走りつづけていましょう。イエスキリストは私たちのために命をかけてくださいました。イエスキリストが命をかけて愛を示してくださつたのであれば、私たちはこの悪い部分を持ち続けて良いのでしょうか。私たちの悪い行動、悪い感情、悪い舌…これらのものを捨て去ることが私たちの義務です。私たちの短所も用い方が間違っているだけで長所になる部分です。私たちの良い部分を活かすためにも悪い部分に気づき、修正していかなくてはなりません。これが、私たちが成長し続ける理由です。私たちは良い部分に気づき、悪い部分を整理して（捨てていく）ことを常にしていなくてはなりません。私たちは周りにいる人々の良いところを見つけ、気づかせてあげることが必要です。それをすることによって自分の良いところを知ることができます。イエスキリストが弟子達の悪い部分を指摘していたのは、良い部分に気づいていたからです。良い部分を際立たせるために不要な部分を指摘したのでした。弟子達が従つたのはキリストが自分の良い部分を見てくれたからでした。私たちが輝くまではしっかりと磨いてください。そして磨かれたのであれば、私たちはどこにいても輝く存在になれるのです。そうすれば、私たちの周riには多くの人々が集まるようになります。私たちは決意をしたのであれば、それを実にしなければいけません。今までの人生で実が残っていなければ、私たちが決意だけで終わっているか、踏み出していないか、決意すらしていないかということです。私たちは種を蒔き続け、30倍60倍100倍、時に1000倍の実を結ぶ事ができます。そのために本来の自分の目的を知り、自らのためではなく、周riの人々にために、行動していきましょう。そして私たちは互いに成長し合うようになり、多くの方々に恵みを流す事ができます。今日から一歩踏み出していきましょう。（要約者：平澤一浩）